

106. <遠近両用眼鏡で機能向上>

下水道事業では、老朽化した施設・設備を改築・更新する「再構築事業」が増加しています。昭和の最後から平成の最初の時期に、急激に整備された下水道施設・設備が順次、改築・更新時期に入って来ているためです。

私の身体も順次老朽化が進行しており、先日、遠近両用眼鏡を購入しました。最近手元が見にくくなったため、書類を見る時に眼鏡をはずすようになり、特に会議中には不便を感じ始めたためです。近所の眼鏡店に行ったところ、「誰もが一度は通る道ですよ。」と暖かい言葉をかけていただきました。目の検査をした後、「これでどうですか」と言われて見た世界は、これまでと別世界でした。手元ははっきり見えるし、遠方も明瞭に視認できます。「年とともに近眼はゆるくなり、乱視も入っていますね。」という店主の言葉に、そうだったのか！と納得です。

下水道施設・設備の再構築は、省エネ・省コストの絶好の機会です。例えば、老朽化した汚泥脱水機を再構築する際に、単に取り替えるだけではなく、十分に検討を行うことで、消費電力量の削減や、含水率の低下、などの機能向上が可能になります。J S では、地方自治体のご要望を実現できるよう、下水道新技術の開発・実用化を実施しています。この眼鏡店主のように、お客様の要望を実現するだけでなく、お客様の気がついていなかった点まで改善・向上を行い、「J S に委託して良かった。」という言葉をいただけることを胸に、日々努力しています。

<事業統括部 藤本 裕之>

※ J S 技術開発情報メール No. 120 号(2011/11/7)に掲載